

保護團體取扱保護人員調

年 別	總保護人員	内		
		收容保護	觀察保護	一時保護
昭和十一年	一四四一人 △七五五六二	一〇一七人 △七五五六二	一五五七人	一、八三八人
同 十二年	一五八四八 △八〇、五五二	一〇一五人 △八〇、五五二	二、四一六	一、二、四一七
同 十三年	一七、八一五 △八七、四六四	一、一六二 △八七、四六四	三、七四〇	一、二、九一三
同 十四年	一九、八八三 △九〇、七三七	一、三二〇 △九〇、七三七	四、四一二	一、四、一五一
同 十五年	一九、八五五 △九五、〇四七	一、四〇四 △九五、〇四七	四、八八三	一、三、五六八
五ヶ年平均	一七、五六三 △八五、八七三	一、一八四 △八五、八七三	三、四〇二	一、二、九七七

備考 △印ハ收容保護延人員ナリ

一 收容保護ハ要保護者ヲ保護施設内ニ收容シテ輔導スルヲ謂フ

司法保護事業補助金下付調

年 別	豫 算 額	事業費ニ對スル比率	下付團體數	下 付 金 額	
				最 高	最 低
昭和十一年度	二二〇八四圓	一〇、八%	二六	二、三〇〇	一〇〇
昭和十二年度	二二〇八四	一〇、四%	・	三、二九四	二二〇
昭和十三年度	二二〇八四	八〇%	・	三、二九四	二〇〇
昭和十四年度	二二〇八四	六一%	・	三、二九四	一五〇
昭和十五年度	七〇、二一五	一四、八%	・	三、九七五	三〇〇

備考 昭和十六年度補助金一〇〇、二五〇圓

全鮮司法保護團體一覽表 (昭和十五年度末現在)

團體名	會長	資產總額	所在地
◎京城救護會	檢事正	四七、四一八	京城府阿峴町八五番地
仁川救護會	府尹	四五、一四	仁川府 礪町
◎開城大成會	府尹	一〇、五一三	開城府高麗町一〇三三番地
◎春川同胞會	知事	一、〇八四	江原道春川邑大和町二ノ四三番地
◎公州慣業院	郡守	二六、五二八	忠南公州邑山城町一九三番地
◎忠北有隣會	知事	一八、二四一	忠北清州邑東町一一〇番地
◎大田自彊會	知事	一七、二一五	大田府春日町三ノ三一五番地
◎咸興博仁會	知事	三三、三六〇	咸興府日出町五三番地
◎元山陽報會	府尹	一三、〇一二	元山府臥牛里一五六番地
◎清津濟成會	檢事正	四五、一二六	清津府巴町七番地
◎平壤有恒會	知事	三四、二六八	平壤府巖町一四番地
◎鎮南浦獎善院	院長	二二、一五七	鎮南浦府新興里一〇七番地
金山浦善隣會	支所長	四四、七四	黃海道殷栗郡北部面金山里

◎新義州自制會	檢事正	二、九三六	新義州府敏浦洞三七三ノ一番地
◎海州濟美會	知事	二、四〇二	海州府北旭町二六二番地
瑞興保全會	郡守	四、八二一	黃海道瑞興郡瑞興面映波里
◎大邱常成會	知事	三、八〇一〇	大邱府東雲町二四八番地
◎金泉尙善會	郡守	一、三五六八	慶北金泉邑大和町三四〇一番地
◎安東辛酉會	郡守	一、二、五八一	慶北安東邑新世洞
◎釜山輔成會	檢事正	三、五、八一六	釜山府富民町三ノ五番地
◎馬山更生會	府尹	一、二、四三八	馬山府午東洞
晋州扶掖館	檢事	七、三六五	晋州府西鳳町四二四番地
◎光州有隣會	知事	三、一、七七一	光州府東町二三八番地
◎木浦成美會	府尹	二、八、五一九	木浦府山亭里三一七ノ三番地
◎全州有終會	知事	二、〇、三四五	全州府老松町六九〇番地
◎群山誠之會	府尹	二、二、〇八八	全北沃溝郡米邑屯栗里八三一番地
計		五、五、七、五、八、七	

備考 ◎印ハ財團法人ヲ示ス

司法保護委員ニ依ル觀察保護人員豫定調

區別人員	備考
新受事件 一九六〇六人	自昭和十年至十四年五年間釋放總人員平均數五八八一九人ノ三分一ヲ毎年新ニ觀察保護ヲ要スルモノトス
繰越事件 九八〇三	新受事件數中二分ノ一ハ保護期間二年ヲ要スルモノトス
合計 二九四〇九	一年間ノ司法保護委員ノ擔當件數
司法保護委員 一人當リ事件 五三強	司法保護委員總數五五〇〇名

司法保護委員會所屬區委員會及委員豫定數額

司法保護委員會	區委員會	保護委員	保護對象者
京城	四〇人	九五三人	五一〇〇人
大田	二三	四四二	二三六〇
咸興	二六	四七〇	二五〇〇
清津	二〇	二七六	一四七〇
平壤	一七	五〇七	二七〇〇
新義州	二四	四〇二	二一五〇
海州	一八	三四〇	一八〇〇
大邱	二四	四九〇	二六五九
釜山	二三	六二五	三三四〇
光州	二二	五五〇	二九二〇
全州	一五	四四五	二四一〇
計	二五二	五五〇〇	二九四〇九

司法保護委員會名稱、位置及管轄區域豫定調

名稱	位置	管轄區域
京城司法保護委員會	京畿道京城府	地方法院檢察局管轄區域
大田司法保護委員會	忠清南道大田府	'
咸興司法保護委員會	咸鏡南道咸興府	'
清津司法保護委員會	咸鏡北道清津府	'
平壤司法保護委員會	平安南道平壤府	'
新義州司法保護委員會	平安北道新義州府	'
海州司法保護委員會	黃海道海州府	'
大邱司法保護委員會	慶尙北道大邱府	'
釜山司法保護委員會	慶尙南道釜山府	'
光州司法保護委員會	全羅南道光州府	'
全州司法保護委員會	全羅北道全州府	'

司法保護委員制度關係職員豫定額

區司法保護委員會				司法保護委員會				區
會 長	參 與	委 員	主 事	書 記	常 務 委 員	參 事	幹 事	司法保護委員
一人	若干名	二五二	一一	一一	二五二	若干名	若干名	五五〇〇
會長ハ地方法院檢事正ノ職ニ在ル者ヲ以テ之ニ充ツ	司法保護事業ニ關係アル官吏及學識經驗アル者ノ 中ヨリ朝鮮總督之ヲ委囑ス	管轄區域内ノ保護區ニ屬スル司法保護委員ノ中ヨ リ朝鮮總督之ヲ命ス			司法保護委員ノ中ヨリ朝鮮總督之ヲ命ス	司法保護事業ニ關係アル官吏及學識經驗アル者ノ 中ヨリ朝鮮總督之ヲ委囑ス	司法保護委員中ヨリ司法保護委員會長之ヲ命ス	朝鮮總督之ヲ選任及解任ス

考

寄附金品募集取締規則

昭和八年八月
總令第七十六號

寄附金品募集取締規則左ノ通改正ス

寄附金品募集取締規則

- 第一條 寄附金品ヲ募集ヤントスル者ハ團體加入ニ依ル會費等ノ徵收、災害救助義損金ノ募集其ノ他何等ノ名義ヲ以テスルヲ問ハズ左ニ掲グル事項ヲ具シ道知事ノ許可ヲ受クベシ但シ其ノ募集區域二以上ノ道ニ互ルトキハ朝鮮總督ノ許可ヲ受クベシ
- 一 許可申請者ノ本籍、住所、職業、氏名及生年月日（法人及法人ニ非ザル團體ニ在リテハ其ノ名稱、主タル事務所ノ所在地、募集事務ニ關シ法人又ハ團體ヲ代表スベキ者ノ本籍、住所、職業、氏名及生年月日並ニ定款、寄附行爲又ハ規約）
 - 二 募集ノ趣旨目的

三 募集區域

四 募集方法

五 募集期間

六 募資金品ノ種類、豫定數量及保管方法

七 事業ノ計畫、收支豫算及完了豫定時期

八 募集費ノ豫定額及其ノ内譯並ニ支辨方法

九 募集事務所ノ所在地

十 許可申請者朝鮮ニ住所

（法人及法人ニ非ザル團體ニ在リテハ主タル事務所）ヲ有セザルニ至リ
 タル事務所）ヲ有セザルトキハ朝鮮ニ住所ヲ有スル代理人ノ本籍、住所、職業、
 住所、職業、氏名及牛年月日、住所、職業、氏名及牛年月日、住所、職業、氏名及牛年月日
 前項ノ許可ヲ受ケタル者（以下單ニ募集者ト稱ス）朝鮮ニ住所（法人及法人ニ非ザル團體ニ在リテハ主タル事務所）ヲ有セザルニ至リ
 人及法人ニ非ザル團體ニ在リテハ主タル事務所）ヲ有セザルニ至リ
 タルトキハ朝鮮ニ住所ヲ有スル代理人ヲ定メ其ノ本籍、住所、職業、
 氏名及牛年月日ヲ具シ許可官廳ノ許可ヲ受クベシ

前二項ノ代理人（以下單ニ募集代理人ト稱ス）ハ寄附金品ノ募集ニ
關シ一切ノ權限ヲ有スル者タルコトヲ要ス
募集事務所ハ募集區域内ニ之ヲ設クベシ

第二條

前條第一項第二號乃至第八號ニ掲グル事項、法人ニ非ザル團
體ノ前條第一項第一號ノ代表者又ハ募集代理人ヲ變更セントスルト
キハ募集者其ノ事由ヲ具シ許可官廳ノ許可ヲ受クベシ但シ募集區域
ノ變更ニシテ一道内ニ於テ募集ノ許可ヲ受ケタル者二以上ノ道ニ互
リテ募集ヲ爲サントスル場合ニ在リテハ前條第一項但書ノ規定ニ依
リ朝鮮總督ノ許可ヲ受クベシ

左ノ場合ニ於テハ七日以内ニ許可官廳ニ届出ツベシ

一 募集者其ノ住所若ハ氏名（法人及法人ニ非ザル團體ニ在リテハ
其ノ名稱若ハ主タル事務所ノ所在地）又ハ募集事務所ノ所在地ヲ
變更シタルトキ

二 募集代理人其ノ住所又ハ氏名ヲ變更シタルトキ

三 募集者タル法人又ハ法人ニ非ザル團體其ノ定款、寄附行爲又ハ規約ヲ變更シタルトキ

四 募集者タル法人前條第一項第一號ニ掲グル代表者ヲ變更シタルトキ

五 募集者タル法人又ハ法人ニ非ザル團體ノ前條第一項第一號ニ掲グル代表者（以下單ニ法人又ハ團體ノ代表者ト稱ス）其ノ住所又ハ氏名ヲ變更シタルトキ

第三條 募集金品ハ之ヲ募集費ニ充ツルコトヲ得ズ但シ募集金ニ限り許可官廳特別ノ事由アリト認メタル場合ハ募集金額ノ十分ノ一ヲ超ヘザル範圍内ニ於テ之ヲ募集費ニ充ツルコトヲ得

第四條 募集者募集從事者ヲ使用セントスルトキハ其ノ本籍、住所、職業、氏名及生年月日ヲ具シ許可官廳ニ届出ヅベシ
募集從事者ヲ解任シ又ハ募集從事者ノ住所若ハ氏名ニ變更ヲ生ジタルトキハ七日以内ニ許可官廳ニ届出ヅベシ

第五條 募集者（法人又ハ團體ノ代表者ヲ含ム）、募集代理人又ハ募集従事者各戸ヲ訪問シ募集ヲ爲サントスルトキハ著手前募集者（法人又ハ團體ノ代表者ヲ含ム）及募集代理人ニ在リテハ募集許可ノ指令書ヲ、募集従事者ニ在リテハ其ノ寫ヲ募集地ノ管轄スル警察署ニ呈示シ其ノ氏名及募集期日ヲ申出ヅベシ

第六條 前條ニ規定スル募集許可ノ指令書ノ寫ハ募集者之ヲ作成シ其ノ餘白ニ之ヲ携帯スル募集従事者ノ住所、氏名及生年月日ヲ記入シ主タル募集事務所ノ所在地ヲ管轄スル警察署長ノ檢印ヲ受クベシ

第七條 募集者（法人又ハ團體ノ代表者ヲ含ム）、募集代理人又ハ募集従事者ハ募集ニ當リテハ左ニ掲グル事項ヲ遵守スベシ

- 一 強要又ハ執拗ニ涉ル行爲ニ出デザルコト
- 二 虚偽又ハ誇大ノ言辭ヲ用ヅザルコト
- 三 募集許可ノ指令書又ハ前條ノ規定ニ依リ檢印ヲ受ケタル指令書ノ寫ヲ携帯シ應募者ノ要求ニ應ジ之ヲ呈示スルコト

第八條 募集者ハ様式第一號乃至第四號ニ依ル帳簿ヲ主タル募集事務

所ニ備付ケ必要ナル事項ヲ記入スベシ
募集者ハ法人又ハ團體ノ代表者ヲ含ム、募集代理人又ハ募集従事
者ハ募集ニ當リテハ様式第一號又ハ第二號ニ準ズル補助簿及様式第
五號ニ依ル帳簿ヲ所持シ寄附金品ノ出納ヲ明ニシ支出ニ付テハ領收
證ヲ徴スベシ

前二項ニ規定スル帳簿ニハ使用前警察署長ノ檢印ヲ受クベシ
募集ニ關スル書類及帳簿ハ收支決算書提出後三年間之ヲ保存スベシ

第九條 募集期間滿了シ又ハ募集ヲ終了シタルトキハ收支計算書ヲ、
事業完了シタルトキハ募集許可ノ指令書及第六條ノ規定ニ依リ檢印
ヲ受ケタル指令書ノ寫竝ニ收支決算書ヲ添附シ遲滯ナク許可官廳ニ
届出ツベシ
募集期間一年ヲ超ユルモノニ在リテハ六月毎ニ收支計算書ヲ許可官
廳ニ提出スベシ

收支決算ニシテ收支豫算ト著シク相違ヲ生ジタル場合ハ其ノ理由書
ヲ添附スベシ

第十條 募集者募集ヲ廢止シタルトキハ募集金品ノ處分方法ヲ定メ廢
止ノ理由書、募集許可ノ指令書、第六條ニ依リ檢印ヲ受ケタル指令
書ノ寫及收支計算書ヲ添附シ遲滞ナク許可官廳ノ許可ヲ受クベシ
募集者事業完了前死亡（法人及法人ニ非ザル團體ニ在リテハ解散）
シタルトキハ其ノ戶主、家族（法人及法人ニ非ザル團體ニ在リテハ
其ノ代表者タリシ者）又ハ募集代理人ヨリ募集許可ノ指令書、第六
條ノ規定ニ依リ檢印ヲ受ケタル指令書ノ寫及收支計算書ヲ添附シ遲
滞ナク許可官廳ニ届出ツベシ
前項ノ届出アリタルトキハ許可官廳ハ募集金品ノ處分方法ニ付指示
ヲ爲スベシ

第十一條 警察官吏必要アリト認ムルトキハ募集ニ關スル書類、帳簿
其ノ他物件ノ提出ヲ命ジ又ハ募集事務所ニ臨檢シ書類、帳簿其ノ他

ノ物件ヲ検査スルコトヲ得

第十二條 本令ノ規定ニ依リ朝鮮總督又ハ道知事ニ提出スベキ書類ハ

主タル募集事務所ノ所在地ヲ管轄スル警察署長ヲ經由スベシ

第十三條 左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ許可官廳ハ募集ノ許可ヲ取

消シ募集ヲ制限若ハ停止シ又ハ募集金品ノ返還、法人、團體ノ代表

者、募集代理人ノ變更若ハ募集従事者ノ解任ヲ命ジ其ノ他取締上必

要ナル處分ヲ爲スコトヲ得

一 募集者（法人又ハ團體ノ代表者ヲ含ム）、募集代理人又ハ募集

従事者本令若ハ本令ニ基ク命令又ハ第一條第一項ノ許可ニ附シタ

ル條件ニ違反シタルトキ

二 募集者（法人又ハ團體ノ代表者ヲ含ム）、募集代理人又ハ募集

従事者公安ヲ害シ又ハ害スル虞アルトキ

三 募集者（法人又ハ團體ノ代表者ヲ含ム）、募集代理人又ハ募集

従事者募集ニ關シ不正ノ行爲アリタルトキ

四 事業完了ノ見込ナキトキ

五 其ノ他必要アリト認メタルトキ

第十四條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ三月以下ノ懲役若ハ二百圓以

下ノ罰金又ハ拘留若ハ科料ニ處ス

一 第一條第一項ノ許可ヲ受ケズシテ寄附金品ノ募集ヲ爲シタル者

二 第十條第一項ノ規定ニ違反シタル者

三 第十條第三項ノ規定ニ依ル指示又ハ前條ノ規定ニ依ル處分ニ違

反シタル者

第十五條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ百圓以下ノ罰金又ハ拘留若ハ

科料ニ處ス

一 第一條第二項、第二條乃至第八條、第九條第一項、第二項若ハ

第十條第二項ノ規定又ハ第一條第一項ノ許可ニ附シタル條件ニ違

反シタル者

二 第十一條ノ規定ニ依リ命ジタル書類、帳簿其ノ他ノ物件ヲ提出

ヤズ又ハ同條ノ規定ニ依ル臨檢、検査ヲ拒ミ、妨ゲ若ハ忌避シタル者

三 本令ニ規定スル書類、帳簿ニ虚偽ノ記載ヲ爲シ又ハ虚偽ノ届出ヲ爲シタル者

第十六條 募集者ハ募集従事者ノ募集ニ關スル行爲ニ付自己ノ指揮ニ

出デザルノ故ヲ以テ其ノ責ヲ免ガルルコトヲ得ズ

第十七條 前三條ノ規定ヲ法人及法人ニ非ザル團體ニ適用スベキ場合

ニ於テハ其ノ代表者ニ之ヲ適用ス但シ法人ニ非ザル團體ニシテ代表

者ナキトキハ團體員ニ之ヲ適用ス

朝鮮ニ住所（法人及法人ニ非ザル團體ニ在リテハ主タル事務所）ヲ

有セザル募集者ニ付テハ前三條ノ規定ハ之ヲ募集者ニ適用スルノ外

募集代理人ニモ亦之ヲ適用ス

附 則

本令ハ昭和八年九月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行、際従前、規定ニ依リ爲シタル許可、處分其、他ノ行爲ハ
之ヲ本令ニ依リ爲シタルモ、ト看做ス

本令施行、際従前、規定ニ依リ爲シタル許可、處分其、他ノ行爲ハ
之ヲ本令ニ依リ爲シタルモ、ト看做ス

本令施行、際従前、規定ニ依リ爲シタル許可、處分其、他ノ行爲ハ
之ヲ本令ニ依リ爲シタルモ、ト看做ス

本令施行、際従前、規定ニ依リ爲シタル許可、處分其、他ノ行爲ハ
之ヲ本令ニ依リ爲シタルモ、ト看做ス

本令施行、際従前、規定ニ依リ爲シタル許可、處分其、他ノ行爲ハ
之ヲ本令ニ依リ爲シタルモ、ト看做ス

本令施行、際従前、規定ニ依リ爲シタル許可、處分其、他ノ行爲ハ
之ヲ本令ニ依リ爲シタルモ、ト看做ス

法人ノ設立及監督ニ關スル規程

明治四十五年三月
總令第七十一號

法人ノ設立及監督ニ關スル件左ノ通定ム

法人ノ設立及監督ニ關スル件
法人ノ設立及監督ニ關スル件

第一條 民法第三十四條ニ依リ朝鮮總督ノ許可ヲ得テ社團又ハ財團ヲ

法人ト爲サムトスルトキハ其ノ設立者ニ於テ社團ニ在リテハ定款、

資産ノ總額及社員ノ員數、財團ニ在リテハ寄附行爲及資産ノ總額ヲ

具シ朝鮮總督ニ申請スベシ

第二條 法人ハ其ノ設立ノ許可アリタルトキハ遲滯ナク左ニ掲グル事

項ヲ主タル事務所所在地ノ道「長官」ニ報告スベシ其ノ第一號及第

二號ノ事項中ニ變更ヲ生ジタル場合亦同ジ

- 一 定款又ハ寄附行爲
- 二 理事及監事ノ氏名、住所
- 三 財産目録及社團法人ニ在リテハ社員ノ員數

第三條

法人ハ毎年三月末、調査ニ依リ翌月中ニ財産目録ヲ添附シ左

ニ掲グル事項ヲ朝鮮總督ニ報告スベシ但シ特ニ事業年度ヲ設クルモノハ年度末、調査ニ依リ其ノ年度ノ終ヨリ三十日以内ニ之ヲ報告スベシ

一 法人ノ目的タル事業ノ概況

二 前年中、處務ノ要目

三 前年中、經費、收入支出金額及其ノ費目

社團法人ハ前項ニ掲ゲタル事項ノ外社員ノ員數ヲ報告スベシ

第四條 道「長官」ハ法人ノ業務ヲ監督スベシ

第五條 道「長官」ハ法人ノ監督上必要ナル報告ヲ徵シ又ハ實地ニ就

キ其ノ業務及財産ノ狀況ヲ検査スルコトヲ得
前項ニ依リ徵シタル報告又ハ實地ニ就キ爲シタル検査ノ成績ハ遲滯

ナク之ヲ朝鮮總督ニ報告スベシ

第六條 道「長官」ハ法人ニ於テ民法第七十一條ニ該當スル行爲アリ
ト認ムルトキハ其ノ事由ヲ詳具シ之ヲ朝鮮總督ニ報告スベシ

附 則

本令ハ明治四十五年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行前設立ノ許可ヲ得タル法人ハ本令施行ノ日ヨリ三十日以内ニ
第二條ニ掲グル事項ヲ道長官ニ報告スベシ

免囚保護事業補助金下付手續

大正二年五月
總内訓第五號

改正 大正八年一月第一號

第一條

免囚保護事業ニ付補助金ノ下付ヲ受ケムトスル者アルトキハ
本手續第二條及第三條第一項ニ規定スル條件ヲ遵守スヘキ旨ヲ記載
シタル願書ヲ提出セシムヘシ

願書ニハ別紙様式資産表收支豫算書事業成績表及免囚保護ニ關スル
規則ヲ添付セシムヘシ

願書ヲ提出シタル者アルトキハ事業經營及維持ノ方法並主管者ノ性
格等ヲ調査シ意見ヲ附シ之ヲ進達スヘシ

第二條

補助金ノ下付ヲ受ケタル者ハ其ノ事業ノ經營上ニ付典獄ノ指

示ヲ受ケシムヘキモノトス

第三條 預囚保護事業ニ付補助金ノ下付ヲ受ケル者其ノ事業ノ主管者

又ハ預囚保護ニ關スル規則等ヲ變更セムトスルトキハ朝鮮總督ノ認
可ヲ受ケシムヘシ

前項ノ場合ニ於テハ其認可申請書ヲ調査シ意見ヲ附シ進達スヘシ

第四條 補助金ノ下付ヲ受ケル者預囚保護事業ノ目的ニ違背スル行爲

アリト認ムルトキハ意見ヲ附シテ其狀況ヲ報告スヘシ

第五條 補助金ノ下付ヲ受ケル者ヨリ毎年四月十五日迄別紙様式ニ依

リ前年度分ノ事業成績表並收支計算書ヲ提出セシメ意見ヲ附シ速ニ

之ヲ進達スヘシ但シ法人ノ設立及監督ニ關スル規定第三條ニ依リ報

告ヲ爲ス場合ハ此ノ限ニアラス

參照

●司法保護事業法

昭和十四年三月三十日
法律第四十二號

(總理、司法、內務、
大藏大臣副署)

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル司法保護事業法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

司法保護事業法

第一條 本法ニ於テ司法保護事業トハ左ニ掲グル者ノ保護ヲ爲ス事業及右

事業ニ關シ指導、聯絡又ハ助成ヲ爲ス事業ヲ謂フ

一 訴追ヲ必要トセザル爲公訴ヲ提起セズトセラレタル者

二 刑ノ執行猶豫ノ言渡ヲ受ケタル者

三 刑ノ執行停止中ノ者

四 刑ノ執行ノ免除ヲ得タル者

五 假出獄中ノ者

六 刑ノ執行ヲ終リタル者

七 少年法ニ依リ保護處分ヲ受ケタル者

第二條 前條ノ保護ニ於テハ本人ガ更ニ罪ヲ犯スノ危險ヲ防止シ之ヲシテ

進シテ臣民ノ本分ヲ恪守セシムル爲性格ノ陶冶、生業ノ助成其ノ他適當

ノ處置ヲ以テ本人ヲ輔導スルモノトス

保護ノ種類及方法ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第三條 司法保護事業ヲ經營セントスル者ハ主務大臣ノ認可ヲ受ケベシ之

ヲ廢止セントスルトキ亦同シ

第四條 主務大臣ハ司法保護事業ヲ經營スル者ニ對シ監督上必要アル場合

ニ於テハ其ノ事業ニ關スル報告ヲ徴シ、實況ヲ調査シ又ハ事業ノ經營ニ

關シ指示ヲ爲スコトヲ得



閣甲第二九三號

案起
昭和十七年七月×日

決定昭和	年	月	日	施行
裁可昭和	年	月	日	施行
	年	月	日	

內閣總理大臣

內閣書記官

內閣書記官

(一)

通牒案

昭和十七年×月×日(七月七日)

內閣書記官長

各省大臣宛

官廳、自治團體、學校其ノ他公的團體ニ就職

內

閣

セル思想犯前歴者ノ措置ニ關スル件

標記ノ件本日別紙ノ通閣議決定相成候條命ニ依リ通牒ニ及ビ候

(二)

昭和十七年七月七日 (七月七日)

内閣書記官長

樞密院書記官長

會計検査院長

行政裁判所長官

貴衆兩院書記官長

宛 (各通)

官廳、自治團體、學校其ノ他公的團體ニ就職

セル思想犯前歴者ノ措置ニ關スル件

標記ノ件本日別紙ノ通閣議決定相成候條可然御配意相煩度命ニ依リ
通牒ニ及ビ候

(三)

昭和十七年七月七日 (七月七日)

内閣書記官長

法制局長官

賞勳局總裁

企畫院總裁

對滿事務局次長

情報局總裁

技術院總裁

特許局長官 (技術院經由)

宛 (各通)

中央航空研究所長(技術院經由)

興亞院總務長官

官廳、自治團體、學校其ノ他公的團體ニ就職

セル思想犯前歴者ノ措置ニ關スル件

標記ノ件本日別紙ノ通閣議決定相成候條然ルベク御配意相成度命ニ依リ通牒ニ及ビ候

(四)

昭和十七年七月七日(七月七日附)

内閣官房總務課長

内閣官房人事、會計兩課長

内閣恩給、統計、印刷、東北

紀元二千六百年祝典事務局^{各局}長

總力戰研究所長

內閣總理大臣秘書官

國務大臣秘書官

宛（各通）

官廳、自治團體、學校其ノ他公的團體ニ就職
セシ思想犯前歴者ノ措置ニ關スル件

標記ノ件本日別紙ノ通閣議決定相成候條然ルベク御配意相成度命ニ
依リ通牒ニ及ビ候

昭和十七年七月七日（七月七日附）

內閣書記官長

宮内次官宛

官廳、自治團體、學校其ノ他公的團體ニ就職

セル思想犯前歴者ノ措置ニ關スル件

標記ノ件本日別紙ノ通閣議決定相成候條參考ノ爲送付ニ及ビ候

(六)

昭和十七年七月七日（七月七日附）

内閣書記官長

大政翼贊會事務總長宛

官廳、自治團體、學校其ノ他公的團體ニ就職

セル思想犯前歴者ノ措置ニ關スル件

標記ノ件本日別紙ノ通閣議決定相成候條然ルベク御配意相成度命ニ
依リ通牒ニ及ビ候

閣第 二九三號

案起 昭和十七年七月

日 閣議決定 昭和十七年七月 日 施行 裁可 昭和 年 月 日

昭和 年 月 日

內閣總理大臣



內閣書記官長

道

內閣書記官



外務大臣

若

海軍大臣

五

商工大臣

五

厚生大臣

待

內務大臣

春

司法大臣

少

遞信大臣

五

鐵道大臣

海

大藏大臣

興

文部大臣

再

鐵道大臣

海

安藤國務大臣

海

陸軍大臣



農林大臣

相

拓務大臣

相

別紙官廳、自治團體、學校其他

公的團體ニ就職セル思想犯前歴者
ノ措置ニ関スル件
右閣議ニ供ス

極秘

昭和十七年七月

官廳、自治團體、學校其ノ他公的團體ニ
就職セル思想犯前歴者ノ措置ニ關スル件

官廳、自治團體、學校其ノ他公的團體ニ就職セル
思想犯前歴者ノ措置ニ關スル件

コミンテルンノ最近ノ動向ヲ觀ルニ所謂合法場面ヲ極力利用スル
ノ方針ヲ採用シ、我國共產主義者モ亦右ノ戰術ニ則リ合法場面ヲ極
度ニ利用シ隱密裡ニ然モ頗ル巧妙ナル方法ヲ以テ凡有機關、凡有團
體ニ潛入シテ暗躍シツツアルノ實情ニシテ細心ノ注意警戒ヲ要スル
モノアリ、就中最近官廳、自治團體、學校、其ノ他公的團體等ニ潛
入シ、國家ノ中樞部ヲ蝕ミ内部ヨリ之ヲ共產主義的方向ニ導カント
策スル者アルノ實情ニシテ之ガ根本的對策ヲ考究スルノ要切ナルモ
ノアルヲ痛感スル次第ナリ。

然シテ最近ノ共產主義思想運動ノ中核組織ハ概ネ思想犯前歴者ヲ
中心トセルノ事實ハ注意ヲ要スル所ナリ。思想犯前歴者ニシテ一應
表面的ニ完全轉向シタリト認メラルル者ガ檢舉セラレ其ノ擬裝轉向
者タリシコトヲ暴露シタル事實アリ。コノ種ノ思想犯前歴者ニ對シ

テハ特ニ嚴重ナル警戒ヲナスノ要アリト認メラル。爾テ我國情ヲ考
察スルニ今ヤ帝國ハ大東亞戰爭ノ眞只中ニ在リテ國家ノ總力ヲ擧ゲ
テ、此ノ征戰目的完遂ニ邁進シツツアリ、此ノ重大ナル時機ニ當リ
舉國一致ノ体制ヲ内部ヨリ破壞セントスルガ如キ不逞兇惡思想ノ抱
持者ガ國家機關乃至之ニ準ズベキ重要部門ニ侵入シツツアルハ斷ジ
テ許サレザル所ニシテ英斷以テ之ヲ排除シ肇國ノ大道ヲ闡明ニシ以
テ戰時下ノ重大時局ニ對處スベキハ最モ緊要ナル所ナリ、而テ現下
内外諸情勢ノ變轉ニ伴ヒ彼等分子策動ノ活潑化ヲ豫想セシムルヲ以
テ之ガ對策ニハ一段ノ考慮ヲ要スベキモノナリ。以上ノ觀點ヨリ左
ノ具体的方策ヲ決定實施セントス。

第一、思想犯前歴者トハ治安維持法違反ニ依リ起訴猶豫又ハ起訴留
保處分ヲ受ケタル者及同法違反ニ依リ有罪判決ヲ受ケタル者ヲ
謂フ

第二、思想犯前歴者ヲ排除スベキ範圍

官廳

公共團體

學校（註、私立學校ヲ含ム）

公的團體（註、官廳外廓團體）

其ノ他新聞社等ノ如キ社會指導機關

第三 具体的措置

(一) 現ニ各官廳、公共團體、學校、公的團體其ノ他社會指導機關

ニ就職セル思想犯前歴者ニシテ轉向ノ實明カナラザル者ハ之ヲ

解職シ左ノ措置ヲ講ズルモノトス

(イ) 非轉向者ニシテ再犯ノ虞顯著ナル者ニ付テハ豫防拘禁所ニ

收容シ社會ヨリ隔離シテ其ノ改悛ヲ圖ルコト

(ロ) 非轉向者ト雖再犯ノ虞顯著ナラザル者及準轉向者ニ付テハ

此ノ際時局ヲ痛切ニ認識セシメ且興國ノ機運ニ依リテ其ノ轉

向ヲ確實ニスル爲南方諸島中適當ノ地域ニ於テ適宜ノ觀察ノ

下ニ夫々適應ノ勞務又ハ業務ニ從事セシムルコト

中其適當ノ居住セシムルヲ不適當

(ハ) 前掲ノ措置ヲ爲サザル者ニ付テハ主務官廳（又ハ監督官廳）

ハ從來ノ使用者ヲシテ本人ノ技能等ニ應ジ適當ナル方面ニ就

職其ノ他授職ノ斡旋ヲ爲サシムル様考慮スルコト

國民職業指導所ハ右ノ就職斡旋ニ付協力援助ヲ爲スコト

□ 前項ノ解職ニ關シテハ使用者ハ該當者ノ居住スル各道府縣

ニ於ケル警察當局、檢事局及保護觀察所協議ニ依ル意見ヲ徵

シ決定スルモノトス

第四 將來ノ對策

思想犯ノ前歴ヲ有スル者ノ採否ニ關シテハ前項（一）及（二）ノ處置

ニ準ズルモノトス

第五

外地及現地ニ於テモ本要領ニ準シタル措置ヲ講スルコトトシ

其ノ具体策ハ主務官廳實情ニ應シテ之ヲ樹立實施スルモノトス

第六

尙本要綱ハ極秘トシテ公表セザルコト

備考

第三項(一)ノ(ロ)ノ措置ニ關シテハ場所及方法等關係廳ノ協議ニ依
リ可成速ニ調査考究ノ上之ヲ決定實施スルモノトス。從ツテ第
三項(一)ノ(ロ)ニ該當スル者ニ付テハ此ノ際取敢ヘズ第三項(一)ノ
ノ措置ヲ講ジ置クモノトス。

閣印第二九四號

起 昭和十七年七月七日

裁可 昭和 年 月 日

施行 昭和 年 月 日

內閣總理大臣

內閣書記官

內閣書記

案

昭和十七年七月七日

內閣書記官長

內務大臣
大藏大臣
陸軍大臣
海軍大臣
司法大臣

宛(各通)

文部大臣
厚生大臣
企畫院總裁

思想犯ニ関スル根本對策要領ニ関スル件
思想犯ニ関スル根本對策要領本日別紙ノ通閣議
決定相成候條命ニ依リ此段通牒ニ及口候

◆ 企画 陸海軍 下 交通 等

極秘

思想犯ニ關スル根本對策要領(案) 昭一七七四日 司法省

- 第一 思想犯ヲ絶滅スル爲左ノ對策ヲ講ズルノ要アルモノトス
 - 一 國體教育ヲ徹底シテ思想犯防止ノ完璧ヲ期スルコト
 - 二 一面生活ノ安定ニ努ムルト共ニ他面國民ヲシテ戰時經濟ニ關スル自覺ヲ十分ニシ以テ思想犯發生ノ餘地ナカラシムルコト
 - 三 取締ヲ嚴重ニシテ犯人ノ増加、犯罪ノ擴大ヲ未然ニ抑制スルコト
 - 四 裁判、檢察ノ適正敏速ヲ期スルコト
 - 五 行刑上個別的ニ特殊適切ノ處遇ヲ講ズルコト
 - 六 犯人ノ轉向ノ爲保護ニ格段ノ努力ヲ傾注スルコト
- 第二 思想犯前歴者ノ轉向ヲ圖リ且轉向者ノ更生ヲ期スル爲其ノ保

護ニ付特ニ左ノ事項ヲ考慮スベキモノトス

一 思想ノ段階ハ非轉向、準轉向、轉向ノ三種ニ之ヲ大別シ右段

階ニ應ジ夫々其ノ取扱ヲ異ニスルコト

二 非轉向者ニシテ再犯ノ虞顯著ナルモノニ付テハ之ヲ治安維持

法第三章ノ規定ニ依ル豫防拘禁所（現在、東京豫防拘禁所）ニ

收容シ社會ヨリ隔離シテ同所ニ於テ其ノ改悛ヲ圖ルコト

三 非轉向者中再犯ノ虞顯著ナラザルモノ又ハ準轉向者申其ノ儘

國內ニ居住セシムルヲ不適當ト認ムルモノニ付テハ南方諸島中

適當ノ島嶼ニシテ他ノ日本人ノ居住セズ又駐兵ノ必要ナキ島嶼

ヲ選ビ此處ニ於テ必要ナル監督ノ下ニ夫々適當ナル業務ニ當ラ

シムルコト

備考

- 南方諸島ニ付テハ場所ノ選定ヲ先決問題トスルヲ以テ之ニ關シ陸海軍及司法當局ニ於テ早速其ノ調査ニ着手スルコトトス
- 四 準轉向者ニシテ前項ノ處遇ヲ爲サザルモノニ付テハ内地ニ於テ従前通ノ保護觀察ヲ爲スコト
- 五 轉向者ニ付テハ其ノ轉向ヲ確保スルニ必要ナル措置ヲ執ルノ外何等特段ノ取扱ヲ爲サザルコト

以上

拓甲二四八

昭和十七年十月二十四日

內閣書記官長

五

內閣書記官

昭和十七年十月二十五日

內閣總理大臣



法制局長官



外務大臣

由

海軍大臣

五

商工大臣

五

厚生大臣

能

內務大臣

春

司法大臣

五

遞信大臣

五

鈴木國務大臣



大藏大臣

興

文部大臣

五

鐵道大臣

五

安藤國務大臣

為

陸軍大臣



農林大臣

五

拓務大臣

五

青土國務大臣

五

別紙拓務大臣請議司法保護事業法

去司

ヲ臺灣ニ施行スル件ヲ審査スルニ右ハ相
當ノ儀ト思考ス依テ請議ノ通閣議決
定セラレ可然ト認ム

勅令 案

呈案附箋ノ通

法制局 第三四〇號

昭和十七年十月十四日

主任 管理局荒木書記官

管警第一六一五號

司法保護事業法ヲ臺灣ニ施行スル件

再犯ヲ防遏シ銃後ノ治安ヲ確保スル爲ニ司法保護事業法ヲ臺灣ニ施行スル必要ヲ認ム仍テ別紙勅令案ヲ提出ス

右閣議ヲ請フ

昭和十七年十月十三日

拓務大臣 井野 碩 哉



内閣總理大臣 東 條 英 機 殿

拓甲二四八

拓務省



新島

朕司法保護事業法ヲ臺灣ニ施行スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

昭和十七年十月三十日

内閣總理大臣

拓務大臣

勅令第七百四號

拓務省

司法保護^規七條中司法保護事業委員會ニ關スル規定ヲ除^ク之ヲ臺灣
ニ施行ス但シ

道府縣、市町村トアルハ州廳、市街庄トス
同法中主務大臣トアルハ臺灣總督トシ

附 則

本令施行ノ期日ハ臺灣總督之ヲ定ム

上 奏 書 用 紙

理由

時局ニ鑑ミ司法保護事業ニ對スル指導^ノニ司法保護事業法ヲ臺灣ニ施行スル要アルニ依ル

石
務
省

説
明
書

犯罪者多シ
最近十年間ニ於ケル一年平均犯罪
人員ハ四萬一千六百四十五人ニ達
シ人口一萬人ニ對シ七十六人大ト
言フ高率ヲ示スヘ参考一
再犯率ハ憂フベキ現象ヲ示ス
刑務所ヲ釋放セラレタル者ニシテ
再ビ罪ヲ犯シ受刑入所スルニ至リ
タル者ハ最近三年間ニ於ケル一年

平均九百二十一人ニ及ビ全入所者
ニ對スル二十六%ハヲ示ス一参考
二、三、四一此ノ数字ハ内地ニ比
シ低キモ之ハ内地ニ於テハ親族間
ノ相互扶助及隣保相互ノ援助充分
行ハレ微罪又ハ初犯ノ者ハ起訴猶
豫、執行猶豫等ノ恩典ヲ受ケ受刑
セザルニ基ク相違ナリ
三 刑務所ヨリ釋放セラレ再ビ犯罪ニ
陥ル期間ハ特ニ注意ヲ要ス

四

刑務所釋放後再ビ罪ヲ犯ス者ハ六
 ケ月以内一九%六月以後一年以内
 ノ者一八、七%一年以後二年以内
 ノ者二〇%ニシテ結局釋放後二年
 以内ニ再ビ犯罪ニ陥ル者ハ實ニ五
 七%大ニ達スル狀況ナリ(参考五
)

右ノ如キ憂フベキ現象ニ對シ特ニ
 時局ニ鑑ミ銃後ノ治安保持ヲ確保
 スルト共ニ戦後ノ犯罪増加ニ對抗

五

スルタメ緊急ニ其ノ對策ヲ樹立ス
ルノ必要アリ
以上ノ如ク再犯率ノ高キコト殊ニ
釋放直後ニ於ケル再犯率ノ驚異的
高率ハ現在ノ台灣司法保護事業ノ
運営ニ幾多重大ナル缺陷存スルニ
因ル即チ
(イ) 本島司法保護事業ハ主トシテ
市街庄長會長トナリ經營シ居レ
ドモ之ハ本島特殊ノ事情ニ因ル

3.

(四)

右保護團體ハ熱意ノ見ルベキモ
 ノアドレドモ事業運営ニ必要ナル
 毛ノニシテ何レモ個人ノ資格ニ
 於テセル任意設立ニ係ル民間保
 護團體ナリ然モ之等團體ハニ、
 ニシテ除外司法保護委員ノ集合
 体ニ過ギズシテ司法保護事業法
 ニ謂フ處ノ司法保護團體ノ實ヲ
 備ヘタルモノ少シハ参考六、七
 八、

運集
乏シク爲ニ保護活動ニ重大ナ

ル障碍ヲ来セリ

ハ) 司法保護事業ニ對スル國家ノ監

督指導不充分ナルタメ事業遂行

上ノ統制聯絡共ニ充分ナラズ

等ニシテ之ヲ放任スルニ於テハ到

底再犯防止ヲ爲シ得ザルモノナリ

六 戰時ニ於ケル犯罪現象ノ増加ハ銃

後ノ治安確保ヲ破リ舉國一致ノ体

制ヲ毀ツコト至大ナルモノアリ政

府ハ舉國一致ノ体制ヲ以テ此ノ重
 大時局ヲ突破スベク聖戰目的達成
 第一主義ニ據リ社會諸機構ニ對シ
 テハ極メテ嚴重ニシテ廣汎ナル統
 制ヲ以テ之ニ臨ミツ、アルモ長期
 戰下ニ於ケル犯罪現象ハ社會機構
 殊ニ其ノ經濟機構ノ急激ナル變化
 ニ伴ヒ樂觀ヲ許サザルモノアリ、
 斯クノ如キ情勢ハ聖戰目的達成ニ
 重大ナル障害タルヲ以テ急速ニ適

切ナル對策ヲ樹立シ戰時及戰後ニ
 處スル犯罪防遏障ノ完璧ヲ期スル
 要アリ
 之が對策トシテハ種々アルベシト
 雖モ特ニ左ノ三點ヨリシテ司法保
 護事業法ノ施行ヲ急務トス
 (1) 司法保護事業ヲ制度化スルノ要
 アリ

防犯對策トシテ檢察、裁判、行
 刑が國家機關ノ下ニ行ハレツツ

54

(四)

アルニ對シ刑政最後ノ要務タル
司法保護ヲ民間事業トシテ放置
スルハ失當ナリ
内地ニ於ケル少年法、思想犯保
護觀察法及司法保護事業法ハ實
施後極メテ良好ナル成績ヲ擧ゲ
ツツアリテ、朝鮮ニ於テモ昭和
十七年三月ヨリ少年令及朝鮮司
法保護事業令ヲ實施セリ
司法保護團體ノ指導監督及助成

ニ関スル事項ヲ整備スル必要アリ

(ハ) 司法保護委員制ヲ設ケ常ニ司法保護事業法第一條記載ノ者ニ接觸シ之ヲ觀察指導シ再犯ヲ防止スル必要アリ

八 本島ニ司法保護事業委員會ヲ設ケザル理由

本島ハ内地ニ比シ地域狭小ナルニ加ヘ島民ノ總テハ總督ノ統治ニ依

6.

九

存シ居リ從テ上意下達、下意上達
ハ極メテ周密ニ行ハレツツアリ、
更ニ本法施行ノ中樞機用トナルハ
地方法院檢察官長ナルヲ以テ監督
指導共ニ嚴正公平ニ行ハルベク司
法保護事業委員會ヲ設クルコトハ
徒ラニ事ヲ複雑ナラシムルノミニ
シテ實益少キニ由ル
施行勅令ニ但シ書キヲ設ケタル理

(1) 本法第一條第七號ヲ變更セント
スルハ本島ニハ未ダ少年法ノ施
行ナキモ犯罪少年又ハ虞犯少年
ノ保護ハ時局下ニ於テ一日モ忽
セニスルヲ許サザルモノアルニ
由リ之ニ代ル規定ヲ設ケントス
、然シテ少年法ノ施行ハ緊要ノ
要務ニシテ本島刑政関係者ノ要
望ナルヲ以テ近ク實現ヲ見ルベ
ク其ノ曉ハ本法ノ通り改正セン

十

- (四) トス(参考ニ一)
- 主務大臣ヲ臺灣總督トシ道府縣
- 、市町村ヲ州廳、市街庄トセン
- トスルハ法域ヲ異ニスル本島ノ
- 實情ニ適應セシメンガタメナリ
- 本法施行ニ依ル内容概況
- 本法ノ施行ハ説明書第七號記載ノ
- 要望ヲ實現セントス
- (イ) 司法保護事業ヲ制度化ス
- 民間有志者ニ依ル慈善事業ナル

カニ思ハレ甚シキニ在リテハ白
眼視スル者サエアリタルヲ是正
シ國家ノ必要施設ナルコトヲ認
識セシメ全島民ヲシテ協力セシ
メントス

(四)

現存ノ司法保護團體ヲ指導監督
シ資金ノ乏シキモノニ對シテハ
補助金ヲ給シテ其ノ經營ヲ助成
シ更ニ新設セントスルモノニ對
シテハ獎勵金ヲ補給シ以テ發達

(ハ)

活 向 保 者 司 全 進 裁 ヲ ヲ
 安 ヲ 子 竝 法 島 展 ヲ 為 獎
 定 観 ツ 刑 保 各 展 ヲ 加 ス 勵
 ヲ 察 ツ 餘 護 地 期 ヲ へ 者 ス
 圖 セ 其 者 委 有 依 テ 對 シ
 リ メ 生 等 員 力 ト 本 シ 一
 再 思 活 親 任 者 ス 業 ハ 面
 犯 想 狀 密 命 二 業 ノ 断 乎
 ヲ ノ 態 ナル シ 日 千 大 堅 乎
 防 善 思 接 常 六 百 實 タ
 止 導 想 觸 犯 百 十 ル 制
 ス ト 傾 ヲ 罪 人 ヲ 十 營
 ベ 生 傾 ヲ 罪 人 ヲ 十 營

ク又檢察官、判官ハ此ノ制度ヲ
活用シ微罪者、初犯者等憫諒ス
ベキ者ニ對シテ起訴猶豫、執行
猶豫ノ處分ヲ爲シ短期自由刑執
行ニ因ル弊害ヲ能ク限り避クル
ナルベシ（参考一〇、一一、一
二、一三）

(二) 司法保護委員會ヲ設ク

司法保護委員ハ市及郡ヲ單位ニ
區司法保護委員會ヲ組織シ聯絡

ヲ全クシ更ニ地方法院管轄區域
毎ニ司法保護委員會ヲ設ケ區司
法保護委員會ノ聯絡統制竝司法
保護委員ノ指導ヲ行ハントス
（參考一四、一五）

說明書參考資料目次

- 一 最近十年間ニ於ケル犯人数調……………一一
- 二 犯数別受刑者調……………一二
- 三 犯数別新受刑者百分比例……………一三
- 四 新受刑者中入所度数調……………一四
- 五 新受刑者中再度以上受刑セル者ノ釈放後現犯
ニ至ル期間別人員調……………一五
- 六 台灣ニ於ケル司法保護施設ノ沿革及現狀……………一六
- 七 司法保護園体数調……………一八
- 八 右ノ昭和十五年度ニ於ケル保護成績表……………一九

九	司法保護團體，機能	二一
一〇	台灣司法保護委員會規程(案)	二二
一一	司法保護委員會，機能	二五
一二	司法保護委員會保護對象人員調	二八
一三	保護對象人員調	二九
一四	司法保護委員會，名稱位置並保護區(案)	三〇
一五	司法保護委員會及司法保護團體設置調	三一
一六	司法保護事業法施行規則(案)	三二
一七	司法保護事業一覽圖	五六
一八	內地之於司法保護施設概要	五七

一九 朝鮮ニ於テ司法保護施設概要……………五九

二〇 内地司法保護事業関係法規……………六一

二一 司法保護國家機關設置ニ関スル建議……………六二

二二 司法保護事業法施行ニ要スル昭和十七年度増

額豫算……………

(参考一) 最近十年間ニ於ケル犯人數調

昭和	七年	八年	九年	十年	十一年	十二年	十三年	十四年
四〇、一八二	四一、一七五	三九、七四四	四一、六〇六	四五、九六二	四二、七〇二	四四、二五四	四五、〇六二	
八三、〇	八二、八	七七、九	七九、六	八五、七	七六、四	七八、三	七七、七	
摘 要								

備考

昭和十五年以降激減シタルハ報告例
 改正ニ依リ行政諸規則違反者ノ計上
 ハ罰金以上(從來ハ科料五圓以上)トシタルガ為
 ニシテ刑務所收容者数等ヨリ推測ス
 ルトキハ却ソテ激増ノ状況ニ在リ

平均	計	
	十六年	十五年
四一、六四五	四一、六四五	三七、四三五
七六、六	六六、四	六二、六

参考三犯数别新受刑者調

合 犯 累 初	区 別 年 次			
	計	六犯以上	三犯以上	二犯
三、二六三	八九三	七〇	四〇〇	二、三七〇
三、二七二	八九〇	一四三	三三五	二、三八二
三、七三二	九八〇	七五	三九五	二、七五五
一〇、二六七	二、七六三	二八八	一、一二〇	七、五〇七
三、四二三	九二一	九六	三七三	二、五〇二
	二六、八	三、八	一〇、九	七三、一

計

平均

百分比

合 計	犯 罪			初 犯	區 別
	六 犯 以 上	三 犯 以 上	二 犯		
一 〇 〇 〇	二 七 四	三 二	一 二 二	一 三 〇	七 二 六
一 〇 〇 〇	二 七 二	四 四	一 〇 二	一 三 六	七 二 八
一 〇 〇 〇	二 六 三	三 〇	一 〇 六	一 三 七	七 三 八
一 〇 〇 〇	二 六 九	三 八	一 一 〇	一 三 一	七 三 一
					平 均

(参考三) 犯“罪”數別新受刑者百分比例

計	区別					年次
	三月未滿	六月未滿	一年未滿	二年未滿	二年以上	
六一〇八	八三	八八	二五二	二五六	四二九	昭和十四年
一一一四	一〇八	一二九	二〇二	二〇八	四六七	昭和十五年
一二〇六	一三〇	一三三	一八五	二二一	五五七	昭和十六年
三四二八	三二一	三三〇	六三九	六八五	一四五三	計
一一四二	一〇七	一一〇	二一三	二二八	四八四	平均
	九、四	九、六	一八、七	二〇、〇	四二、四	百分比

(参考五)
 新受刑者中再度以上受刑也ル者ノ
 釈放後現犯ニ至ル期間別人員調

参考六

台湾ニ於ケル司法保護施設ノ沿革及
現状

改隸後間ニ無キ明治三十一年現在ノ台
北市新起町ニ白羽窮民救養所設置サレ
タルヲ嚆矢トスレドモ幾許モ無ク廢止
サレ次テ翌年同市ニ之ヲ試ミタル人
リタルモ之亦暫クニシテ閉鎖ヲ見ルニ
至リタルモ當時既ニ識者ニ依リ保護ノ
必要ヲ認メラレタルヲ知り得ルナリ

其ノ後明治三十八年ヨリ四十年ニ至ル
間保護ノ要ヲ直接痛感スル全島各刑務
所長ノ發企ト同職員ノ協力ニ依リ各刑
務所所在地ニ保護會設置セラルレ民間有
志者ノ寄附ヲ加ヘ漸次發展ノ途ヲ辿
リ来リ更ニ事業ノ擴張ヲ圖ル夕メ大正
四年各保護會ヲ打ツテ一丸トスル財團
法人臺灣三成協會設立セラルリ爾来
本島ノ發展ト一般人士ノ認識深マルニ
伴ヒ別表一参考七ニ示スカ如ク保護

會數二百三十五團體ヲ數ヘ昭和十五年
 度ニ於テ保護シタル人莫ク九三三三人
 一参考八一ニ達シ居レ共確クル制度十
 々夕メ強カナル保護ヲ加フ能ハズ其ノ
 上資金亦乏シク充分ナル活動ヲ爲シ難
 現況ニ在リ

參考七

司法保護團體數調

(昭和十七年三月末現在)

司法保護聯合會數	管內保護會數	計
財團法人臺灣三成協會	七	八
同 臺北州聯合保護會	五三	五四
新竹州聯合保護會	五一	五二
臺中州聯合保護會	七一	七二
臺南州聯合保護會	一八	一九
高雄州聯合保護會	一三	一四
臺東廳聯合保護會	二	三

計	花蓮港廳聯合保護會
八	二 二 一 二
二 三 五	一 三

(参考八二) 收容保護成績表 (昭和十五年度)

種別	区内		区外		計
	場内ニ於テ就業スル者	場外ニ於テ就業スル者	其ノ他ノ者	計	
越人員	一八	二五	一	四四	
新保	八八	三四	九	一三一	
保護ヲ除キタル人員	一五	四		一九	
親族ノ引取	二五	一	三	二九	
他ノ引取	八	五	一	一四	
他保	一六	九	四	二九	
退會	二	三		五	
無期	一八	二	二	二二	
犯罪		二		二	
種別	一〇	二		一二	
死					
其他					
計	九四	二八	一〇	一三二	
現在員	一二	三一		四三	
延人員	五〇八	九五八	六五五	一五、二六一	

備考
 收容者ニ對スル給與金額一、四四九、九〇ナリ

二、觀察保護成績表

觀察保護人員數

種別	人員	種別	人員
保護	八四五六	越人員	
歸任	三九八四	新保護	
環境	六一九〇	保護 他保護 行方	
柱打	二六〇	不明	
生活	二二三	犯罪	
業務	三八五	死亡	
放牧	一一一	其他	
指導	三〇二	計	
雜件	三四七一	現在員	
合計	七九六九		
種別		種別	
準備	一四、六七三	準備	
斡旋	六三、一八	斡旋	
調整	六、七三八	調整	
陶冶	一八、四六六	陶冶	
扶助	一、二二六	扶助	
助成	一、五九九	助成	
紹介	一、〇八九	紹介	
指導	二、四四六	指導	
雜件	五、〇三八	雜件	
合計	五、五八三	合計	

觀察保護取扱件數

備考

被保護者ニ對スル給與金額一、〇七、一七十一

三、一時保護取扱件數

種別	件數
保護歸任	一五五
環境性給付	三六六
生活生業斡旋相談	九五
生活生業斡旋相談	二五七
生活生業斡旋相談	一四五
生活生業斡旋相談	一三四
生活生業斡旋相談	四五七
生活生業斡旋相談	二一七
雜件	三
合計	六四八九

備考

被保護者ニ對スル給與金額二、一六、三四ナリ

(参考九)

第一

一、收容保護
 司法保護團體機能
 收容保護
 司法保護團體機能

1. 精神
 精神
 精神

2. 授產的指導
 授產的指導
 授產的指導
 場內作業、場外作業
 作業器具、貸與又、給與

3. 疾病療養
 疾病療養
 疾病療養

4. 生計補助
 生計補助
 生計補助

5. 其他一身上之閉又ル指導
 其他一身上之閉又ル指導
 其他一身上之閉又ル指導

二、一時保護

1. 職業紹介
 職業紹介
 職業紹介

第二

- 2. 就職用器具ノ貸與又ハ給與
- 3. 釈放時季節相當ノ衣類ノ給與
- 4. 保護來迎迄ノ宿泊
- 5. 途上保護、連行保護
- 6. 歸住旅費、貸與又ハ給與
- 7. 其ノ他、一般ノ一時的保護
- 其ノ他
- 1. 司法保護思想ノ普及徹底
- 2. 司法保護委員制度ニ對スル助成
- 3. 其ノ他保護事業遂行上必要ナル
- 事業

(參考)一〇

臺灣司法保護委員規程 (府令案)

第一條 司法保護委員ハ臺灣總督ノ監

督ヲ承ケ司法保護事業法第一條ニ掲

ガル者ノ保護ヲ行フ

第二條 司法保護委員前條ノ保護ヲ行

フニハ保護ヲ受クベキ者ノ性行及境

過ヲ調査シ其ノ性格ノ陶冶及生活ノ

安定ヲ圖ルベシ

第三條 司法保護委員ハ臺灣總督之ヲ

選任及解任ス

第四條 各司法保護委員ハ臺灣總督ノ

第五條 定ハル保護區ニ之ヲ配屬ス

各地方法院管轄區域毎ニ司法

保護委員會ヲ置ク會長及委員ヲ以テ

之ヲ組織ス

會長ハ當該地方法院檢察局ノ檢察官

長ノ職ニ在ル者ヲ以テ之ニ充テ委員

ハ管轄區域内ノ保護區ニ屬スル司法

保護委員ノ中ヨリ臺灣總督ノ命ズル

者ヲ以テ之ニ充ツ

第六條 司法保護委員會ハ司法保護委

員ノ指導及訓練其ノ他司法保護委員ノ職務ノ遂行ニ関シ必要ナル事項ヲ

處理ス

第七條 本令ニ規定スルモノヲ除ク

外司法保護委員及司法保護委員會ニ

関シ必要ナル事項ハ臺灣總督之ヲ定

ム

附則

本令ハ司法保護事業法施行ノ勅令公布

ノ日ヨリ之ヲ施行ス

參考

司法保護委員會，機能

第一

輔導 = 関スル機能

一 親放時，保護

1. 親放時本人，家族親族其他

，連終幹旋

2. 親放時季節相當，衣類，給與又

，其，幹旋

3. 歸住旅費，送付幹旋

4. 親放時，出迎

5. 保護者未迎送、一時宿泊方斡旋
二. 融和調停

家族親族近隣郷黨知己雇傭主被害
者其他ト、融和調停

三. 生活ノ指導及扶助

1. 堅實ナル思想ヲ把握セシムル為

1. 精神的指導

2. 環境ノ整理

3. 生計扶助ニ関スル扶助

4. 家庭形成ニ関スル授産及指導

四

5. 育兒 贖學 = 関スル 指導

4. 生業 / 指導 及 援護

1. 職業 内職 共 / 他 授産 = 関スル 紹

介 斡 旋 及 指 導

2. 小 額 資 本 / 貸 共 又 ハ 給 共 方 / 斡

旋

3. 生 業 用 器 共 / 貸 共 又 ハ 給 共 方 /

斡 旋

五

戶 籍 整 理 / 指 導

出 生 寄 留 婚 姻 及 死 亡 等 = 関スル 戶

籍上、指導

六 保健救療、指導及斡旋

1. 各種無料又ハ減價診療、斡旋

2. 公私立、施療病院又ハ産院ハ、

入院斡旋

3. 精神病救助規程ニ依ル入院斡旋

4. 其、他保健ニ関スル一般的指導

5. 助葬ニ関スル斡旋

七. 家族保護

1. 刑務所收容者、家族ノ生計等實

狀

27.

第

- 一 司法保護團體
卜 聯絡
- 二 其他
- 三 社會福利施設
、 利用方斡旋
- 四 司法保護團體
、 保護方斡旋
- 五 其他
- 六 刑務所收容者
卜 具、家族卜、連
- 七 及指導
- 八 刑務所收容者
、 家族、生計扶助
- 九 調查

二 社会福利施設
三 司法保護思想
普及徹底
ト、聯絡

参考一二
司法保護委員保護對象人員調

区	別人	員摘
毎年新ニ保護スベキ 人 員 一三八二三人 毎年保護スベキ人員 二七、六四六 保護委員一人ノ担当 員 一〇 人		参考一三 保護期間平均二年ヲ要スルニ依リ前号ヲ二 倍ス 保護委員ヲ二七六五人トス

要

參考一三

保護對象人員調

計	起訴猶予	執行猶予	執行停止	執行免除	假釈放	満期釈放	種別	
							昭和三十四年	昭和三十五年
一二九七三	九四三六	四〇七	一一七		五七	二九五六	昭和三十四年	昭和三十五年
一三一六八	九五六九	三八三	一〇四		五九	三〇五三	昭和三十四年	昭和三十五年
一五三二八	一一四一〇	四四〇	一三八		八五	三二五五	昭和三十四年	昭和三十五年
四一四六九	三〇四一五	一二三〇	三五九		二〇一	九二六四	計	
一三八二三	一〇一三八	四一〇	一二〇		六七	三〇八八	平均	

備考

一 執行猶予起訴猶予者、數ハ台湾犯

罪統計ニ依ル

二 前號以外ハ報告例年報ニ依ル